



いろいろな話を聞く

入学当初ということで、いろいろな話を聞く機会が多く、そろそろ食傷気味になっていることだろう。しかし、昨日も司会をしながら話したように、一度でも聞いたことのある内容は、もう一度聞いた時に、はるかに容易に頭の中に入ってくるものなのだ（塾や予備校に行って「分かった!」と思い、「やっぱり塾・予備校ってすごいんだ!」と感じる人がいるが、実は一度学校でやったことを、新しいことのように装って君たちに伝えているに過ぎない場合が多い…。）これからも大切な事項については繰り返し話題になるはずなので、今よく理解できなくても、とにかく話だけはしっかり聞いておくようにしよう。

「次」が違ってくるに違いない。

最近の言葉の中で印象に残ったのは、やはり入学式での如蘭会理事長旗照夫（はたてるお）先生の「潜在するもの」の話。そう、君たちには、君たち自身も気づいていない、つまり君たちの中に潜在している「何か」をいっぱい持っているのだ。その何かを見つける旅が「人生」というものだろう。そして、よく青春時代が「自分探しの時代」と言われる以上、日比谷での生活は、まさにその何かを見つける日々でもあるということだ。

だから、今気づいている自分、つまり「顕在化」している自分を、「これが自分なんだ」とか、「これがすべてなんだ」などと考える必要はまったくない。変わることを恐れずに、いや、むしろ変わることが素晴らしいことなのだと考えて、色々な仲間と関わり、色々な

ことに挑戦していこう。「失敗が許されるのは若者の特権」というのも、こういう挑戦を応援する言葉なのだと思う。

同じく入学式でのPTA代表の方の祝辞の中には、「怠け者は不満を語り、努力する者は希望を語る」という、作家井上ひさしさんの言葉が引用されていた。なかなか含蓄に富むよい言葉である。

関係ないが、似たような言葉を思い出したので書いておこう。誰が言ったのかは忘れたが、「夢を持つな、目標を持て」という言葉である。夢は（抽象的なまま）夢として終わってしまうことも多いが、それを目標に置き換えると、具体化して、達成しやすくなるというのだ。これまたなかなか含蓄に富む。

昨日の学年主任の話は、我々教員が示すのは大枠であり、その中身を充実させるのは君たち自身の自主的な取り組みである、特に勉強に関しては「自勉」が求められる、というのがポイントだったと思う。心にしっかり刻んでこれからの生活に生かそう。

*

さて、教室の後ろに本箱があるのに気づいただろうか。あれは通称「ほとちゃん文庫」と呼ばれる？もので、私が読んでブックオフに出さなかった本である。貸し出し自由なので、興味のあるものがあったらどんどん持ち出して読んで構わない。他クラスの人に貸してもOK。ただ、一回一冊、長期間独り占めしない、汚さない、といったことには配慮してほしい。今後も内容の充実にも努める予定。